

グリーン経営

認証登録9年目の挑戦

ホイテクノ物流 全店で燃費1%向上

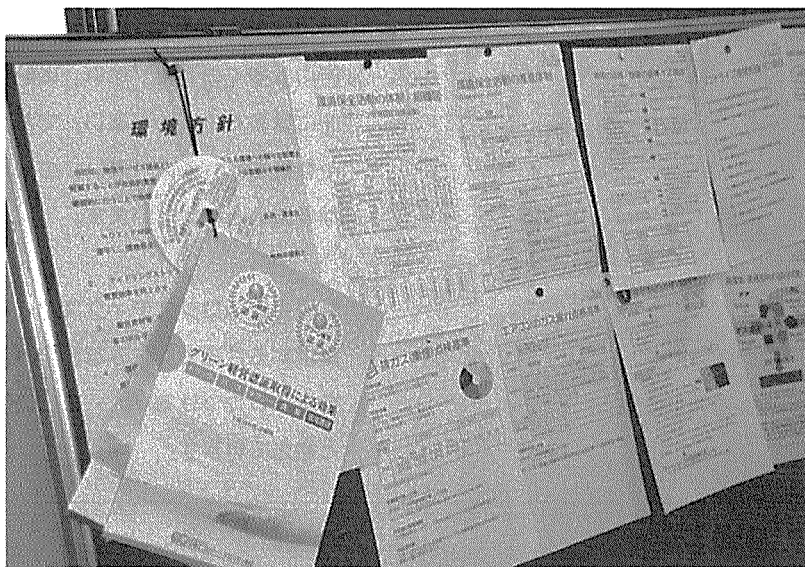
ホイテクノ物流（本社・愛知県蒲郡市、加藤雅仁社長）は、環境負荷の少ない事業運営に対して認められる「グリーン経営認証」を取得し、ことで九年目。店所の掲示板や車両工場に燃費目標数値などを掲示。可視化することで社員の意識を高め、レベルアップを図ってきた。（七森 佳世）



アイドリングストップシールの貼られたトラックと橋本部長

平成二十四年度は全店平均1%の燃費アップを達成した。認証取得当初より燃費の改善は緩やかにってきたが、エコドライブの成果が継続して出ている。環境をテーマに手探りで歩んできたが、道のりは決して平たん

が、エコドライブの成果が継続して出ている。環境をテーマに手探りで歩んできたが、道のりは決して平たん



各店所に標語を掲げ意識向上へ

なものではなかった。グリーン経営認証は、交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となり、トラック

事業者に対し十年前から開始。グリーン経営推進マニュアルに基づいて一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を審査。認証・登録を行う。ISO14001（環境マネジメントシステムに関する国際規格）認証の取得が難しい事業者でも容易に環境保全を進められるのが特徴。

ホイテクノ物流のグリーン経営認証は、品質マネジメントの国際規格「ISO9001」取得が土台に。品質環境コンプライアンス部が環境と品質の両面で運営している。

測定基準など 課題点が浮上

認証登録後、社員の誰もが理解できるよう、自社マニュアル冊子や「グリーン経営活動通信」を作成し、情報を共有。各店所の掲示板に「エコドライブの基礎知識実施事項」の標語も掲げ、社員の意識向上に努めてきた。

自社マニュアルに基づき、各店所で店長が中心となり

環境行動計画を策定。名古屋支店では①エコドライブの実施②低公害車の導入③自動車の点検・整備——といった環境行動項目に対し、目標を設定。各項目のチェックリストで活動状況を確認する。例えば、エコドライブ実施項目では燃費実態調査を毎月実施。達しなれば何が足りないのか改善策を探る。

品質環境コンプライアンス部の橋本進部長は「登録後当初は、オイル交換基準などドライバーとの意見の違いもあり、苦労した経緯も」とこれまでを振り返る。エコドライブの実施後、デジタル式タコグラフ（運行記録計）メーカーや積載量の違いから正確なデータを測定できない問題などが浮かび上がった。今後は、「燃費測定に関する統一基準を見直していきたい」と話す。

グリーン経営認証が普及してきたいま、環境負荷低減の次なるステップを見据える。